

人と違うということ

中 二

私は、日頃から人種差別ということを気にして生きてきた気がします。

私は、アフリカ系の父と日本人の母との間に生まれたハーフです。当然のことながら私の肌の色はみんなとは違います。そのためなのか、小さい頃に、からかわれたことがあります。今でも、すれ違う人が私のことをめずらしいものを見るような目で見ることがあります。このようなことで、嫌な思いをすることがあります。

嫌なことは世界のニュースでも知りました。アメリカでは、白人警察官が無抵抗の黒人を射殺する事件がありました。最近このような種類の事件が続けて起こっているようでした。

これらのニュースがきっかけで、人種差別について、家族で話し合うことができました。

家族は、私が生まれる前に考えていたことがあるそうです。それは、私がハーフであることで、

他人から偏見の目で見られることや、友達からのいじめにあうことなどについてです。けれども、両親や姉は、

「一番大切なのはハーフであることや、肌の色や言葉の違い、環境の違いではない。生まれてくる子どもは、それぞれの課題をもって生まれてくるのだから、平等に幸せになる権利をもっていることだ。」

と言っていました。そして、乗り越えなければならぬ外見的なものを与えられて生まれてきたと思うのではなく、自分こそ世界の人と人を結ぶ架け橋になっていくのだと自信をもって生きてほしいと願っていたそうです。さらに、私に、

「Aは、それができると信じているので、世の中のためになれる人になってください。」

と言いました。私は、家族から信頼されていることに気付き、自信がもてました。

家族との話し合いの後で考えたことがあります。それは、確かに世界には人種差別はあるけれど、その違いを認めてくれる人もたくさんいるということです。私の場合、自分の存在を認めてくれる

家族や友達や先生がいます。たとえば体育祭の時にかけ声を任せてくれたり、皆と同じように接してくれたりします。仲間の一人として見てくれます。

そんな仲間の一人の発表に感動したことがあります。その子は、ダウン症の家族についての作文を全校生徒の前で発表しました。私がどこに感動したかといえば、家族を守ろうとする家族愛と心の強さです。私には、その強さが足りないと感じました。偏見や差別に立ち向かう強さが必要だと思いました。私は、その子に教えられたのです。

振り返ってみて、私はどうだろうと考えてみました。私自身は、他の人と肌の色が違うという思いがいつもあつたので、そのことで悩んだことがあります。

人種差別とは、私が克服すべきテーマなのかもしれません。この作文を書くことで自分の問題にしっかりと向き合おうと思いました。

人と違うことは、その人の個性だと思えます。人間は、一人として同じ人はいないと思えます。人と違うという部分は、人権に限らずいろいろあ

ると思えます。たとえば、考え方や食べ物の好き嫌いなど様々あると思えます。人と違うことを責めたり、嫌ったり、また、人と違ういうことで自分を責めたり、嫌ったり、そんなことで悩むよりも、もつといろいろな人と交流をしてみたいと思います。

人と違うということは決して悪いことではないと思えます。そもそも人種に関係なく、私たちは皆同じ人間なのだから。そして、皆平等なのだから。